

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000705), 法人名 (有限会社 グループホーム花), 事業所名 (グループホーム 花 (1階)), 所在地 (小樽最上2丁目19番9号), 自己評価作成日 (平成31年2月25日), 評価結果市町村受理日 (平成31年4月2日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2018\_02\_2\_kihon=true&JigvosvoCd=0172000705-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年3月19日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地内には畑があり、苗植えから収穫まで入居者と職員が一緒に行い、収穫された野菜は食材の一つになっています。
地域の方々と触れ合う機会を多くもち、中に閉じこもり気味の生活にならないように、外出や行事、地域交流に連れて行くよう支援に取り組んでいます。
消防設備もスプリンクラーの設置及び非常ベルと火災通報装置が連動されている等、安全設備も万全になっており安心して過ごせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 花」は介護を仕事としていた代表と管理者が時間割で決められた介護ではなく“利用者が生甲斐と自信を持って地域の中で生活する”介護を目指して、港町小樽、天狗山スキー場の麓の坂に2004年に1ユニットとして開設。6年後に同じ坂の上方に2階建ての2ユニットとして移転し、18名の利用者が職員の“家族的な雰囲気”の中で日々暮らしている。当事業所に於いて特筆すべき事は終末期の利用者本人の思い、意向の把握の為に、直筆、又は職員の聞き取りによるアンケート調査を行い、その思い、意向の実現の可能性を求める事を目的としての介護を職員が日々実践していることが挙げられる。更に、事業所の敷地である建物前方の広場に於いて、毎年地域の方々の多くの参加を得てフリーマーケットを主催し、利用者は前日から販売する品物、屋台での食材の準備等の手伝い、当日は売り子さん、そして屋台の店主となつての、買い物、食事に来る地域の方々との積極的な交流も挙げられる。アンケートの回答を利用者本人から聴取し、利用者と共にフリーマーケットを通して地域との積極的な交流を図る“自分の出来る所は積極的にやってもらう”という介護を日々実践する「グループホーム 花」の今後におよ一層の期待をしたい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing evaluation results for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果(1階ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の届く場所にあり、管理者および職員が共有しながら実践に繋げている	理念は開設当初より変わることなく、職員に定着し、して日々の介護の指針となっている。職員は年1回程の勉強会等に於いて理念を再確認し、その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園や中学校に互いに訪問したり、ホームに來たりしており、また、当ホームのフリーマーケットにも地域の人の参加して頂き交流している	地域との交流、貢献は積極的に行うこととしており、事業所前の広場で毎年主催するフリーマーケットでは、利用者が売り子、屋台の店主となる等活躍しており、地域の方々も毎年顔馴染みの販売者、お客として参加、協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、近隣の方々より相談を受けたり、サービスの紹介等を行っている。保育園、中学校の訪問など利用者や接する機会があり、互いに触れ合い理解して頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、地域包括センター、近隣の方、家族に参加して頂き、ホームの出来事や取り組んでいる事等について報告を行い、意見や情報交換を行いサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いては利用者の日常生活の報告を始めとして、「ヒヤリ・ハット」「事故報告」等を積極的に行うこととし、事業所の公開性を高めることに留意し、又その議事録は全家族に送付されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接、小樽市の担当者と連絡を取り、分からないことは聞き、また、実情やケアサービスに関する情報を積極的に伝え、協力関係の構築に取り組んでいる	市との連携に於いては介護保険、生活保護等の制度についての情報を共有することとしており、又市主催の研修会等に積極的に参加するなど、行政との連携に日々努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束の研修を行っており、理解している。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待についてのマニュアルを作成している。又、職員全員による「身体拘束防止委員会」を3ヶ月に1回の定例としており、都度職員に周知徹底するようにして、身体拘束、虐待をしないケアの実践に日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	見過ごすことの無いよう注意を払い、職員同士で学ぶ機会を持ち、知識を共有し虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、制度について学ぶ機会をもち、必要に応じ説明をするなど、制度を活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得して頂いている。また、聞きやすい雰囲気です不安や疑問点がある時は直ぐに対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見、要望欄を設け、意見箱を設置している。家族の来訪時には、必ず意見や要望がないか尋ね支援や運営に反映させている	運営推進会議への家族の参加を得ており、その議事録は2ヶ月に1回送付し、又、利用者全員の日常の写真を掲載した「花だより」を担当者の一言のお手紙を同封して毎月送付することにより、家族の意見、要望の聴取に努めている。	一ヶ月に1回の「花だより」を一人ひとりの写真を掲載し、担当者の利用者個々の日常を伝える一言を添えることで個別化を明確にし、事業所の発信によって利用者家族の意見、要望等が多くなるように「花だより」のなお一層の充実を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員から意見や提案を聞く時間を持ち反映させている	職員は1年単位での目的を設定し、管理者が確認、意見交換を行い、必要があれば6ヶ月で見直しをすることとしている。又、管理者は随時の個人面談、月1回の職員会議に於いても話を聞くこととしており、職員の意見、要望の聴取に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価にて評価及び日常の勤務状態など、職員の努力、実績に応じた評価を行い手当を支給するなど、やりがいや向上心を持って働けるような環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、働きながらトレーニングを行い支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市内にて定期的開催しているケアネット研修会の幹事をさせて頂き、他業種の方や同業者と交流を図り、勉強会やネットワークづくりなど日頃のサービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子を良く見て、本人が困っている事、不安、迷い、要望、思い等を聞き、本人が安心して生活できるように良い関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事、要望がある時は、良く話を聞き対応しており、良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の出来る力を有意義に発揮できるように、役割を持って日々を過ごせるよう共に良い関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に情報交換をしており、本人と家族の絆を大切にしながら共に良い関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の通い慣れた美容室や病院に行けるように努めている。馴染みの人も訪問しやすいような雰囲気にも努めている	近隣出身の利用者が数人居り、その景色、その空気が馴染みのものとなっている。又、以前からの理美容院にも出かけており、利用者の馴染みの人、場の関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないようにみんなのできる事に参加して頂き関わり合いを持てるよう支援に努めている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族や病院担当者から連絡があった場合、これまでの関係を大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望、意向の把握に努め、困難な場合は本人本意を重視し検討している	利用者の終末期に対する思い、意向を利用者本人が用紙への直筆での記入、それが無理な場合は職員が聞き取るという、利用者と職員が良好な関係性が築かれた上でのアンケート調査を行っている。利用者の一人は職員に対して「ありがとう」と記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等は、入居前のケアマネジャーや家族、本人から情報を聞き、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況等、一日の変化の様子は、申し送りや記録、連絡ノートにて職員同士が共有し現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや日々気づいたことなど、本人の様子を申し送り時などに話し合い、計画の見直しに反映している。また、本人や家族の意向を聞き反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は担当者が家族の思い、意見を聴取し、ケアマネジャーと共に長期計画のみを作成している。その目標は業務日誌に毎日記録し、利用者の状況を見ながら見直しをすることとしており、職員は利用者の介護計画の実現の為に日々介護に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って日々の様子、変化、気づきは個別記録に記入し、職員間で情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通い押れた病院での受診、買物、入院の手続きなど同行・代行支援を行うとともに、介護保険等の更新手続きなどの支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の力が発揮できるよう、地域の介護予防体操や保育園祭、中学校祭などへの参加を援助するなど、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は必ず看護師または職員が付き添い同行している。日常の様子、変化等状況を主治医に伝え主治医との良い関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	職員として看護師が配置されており、協力医、かかりつけ医の受診時には利用者に同行している。又、協力医療機関による月2回の往診も行われ、利用者にとっては安全、安心の医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に週3回出勤し職員と情報共有しながら利用者の状態を、状況把握して適切な受診や看護が受けられるよう支援している。また、24時間オンコール体制で緊急時などにも対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、医師、看護師、医療連携室と連絡を密に取り、様子観察に行くなどして状態把握するように努めている。退院時、安心してホームで生活できるように相談、助言を頂き、病院関係者との関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し同意得ている。看取り支援は行わない為、実際に重度化し主治医がホームで看護が困難と判断した場合には入院または転移できるよう調整している	入居時に看取りを行わないことの同意を得ているが、利用者のアンケート結果の本人の思いを職員は共有し、終末期に適切な病院へ行くぎりぎりは居室に於いての介護に努めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当ホームの緊急時対応マニュアルにそって職員は対応出来るようにしているが、職員も入れ替わっている為、都度、訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間を想定した避難、消防訓練を実施しており、全ての訓練時は消防職員の派遣と火災通報装置に登録されている地域住民にも参加をお願いしている	事業所ではイベント等の使用も含めての発電機を用意しており、地震、停電、火事等それぞれの個別の訓練を行っている。又、冬期の災害を想定して電気を使用しない灯油ストーブを用意している。又、災害時避難所は全家族に告知している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーを損ねないよう口調や接する態度に気をつけ対応している	高齢者に対する礼儀、礼節は介護の基本であり、職員の入社時に研修を行っている。又、トイレは廊下等から奥まった作りになっており、風呂の脱衣場にはカーテンをつける等細やかな配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での会話の中で、思っている事ややってみたい事を聞き、本人の思いに沿って自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しないで本人のペースに合わせて過ごせるように本人の希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が日々の服を選び着ている。また、季節に合った服のアドバイスも交え支援している。散髪は2か月に一度は必ず行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを確認し、食事作りを行い、可能であれば利用者に調理の一部や片づけを行って頂いている。食事は、職員と一緒に摂っている	献立は利用者の要望を聞きながら今ある食材を利用して作っている。刺身等の生ものも適宜食卓に載り、利用者は食事を楽しんでいる。又、食器洗い、台所掃除の利用者の当番を決め、介護計画の一つとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事と水分量を把握しており、食欲低下や水分不足時は、その都度声かけし一日のトータルで確保できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて訪問歯科診療を受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子を見ながら声かけなどにて誘導を行っている	トイレでの排泄を基本とし、日中は布パンツを使用することとしており、プライバシーを確保した声かけ、誘導により利用者一人ひとりの自然な排泄を目指して日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルト、ヨーグルトなどで腸内環境を良くするなど、自然排便を促しており、必要に応じて医師に相談し看護師にて対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルを把握し、プライバシーに配慮しながら、週2回で個々に沿った支援をしている。必要であればシャワー浴にすることもある	季節を感じられる窓からの眺めと広めの浴場で、週2回の入浴と決めてはいるが、シャワー浴を含め、臨機応変に利用者に入浴を楽しんでもらっている。循環装置によってお湯は常に清潔な状態を保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や希望に応じて自由に自室にて休息をとれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や変更など、フロア内で共有し、服薬時は、二人以上で確認し、声かけで飲み忘れがないように支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に配慮し、それぞれ出来る事をして頂いている。外出など、出来る限り気分転換を図れるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での外出は難しく、季節に合わせた外出（サクランボ狩りや海水浴）支援や少数で近所の寺などへ散歩などしている	夜勤専従者を置く事によって、日中の勤務に多少の余裕が生まれ、事務長が中心となって、日常の続きとしての個別対応の毎日の散歩が当たり前となっている。又、ユニット、数人単位での月1回の外食、カラオケ等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ホームで管理し、必要に応じて個々ので使っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由にやり取り出来るよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地良く生活できるように飾り付けし、季節感を採り入れている。冬期は、濡れタオルを干すなど湿度対策をしている	リビング、食堂は大きな窓から明るい、温かな陽が差し込み、その窓からはお寺の木立越しに利用者に馴染みの街並みが眺望できる。柔らかな陽光を浴びながら利用者はソファで寛ぎ、又食堂のイスに職員と座り、語り、そして笑い声がいつも聞こえる賑やかな共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席は個々の仲の良さなどに配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、使い慣れた家具を持ってきて頂くようにしている	居室の入口には入居者手作りの表札が掲げられ、入居者一人の生活空間は6畳程である。居室で入居者は一人の時を、一人の思いを過ごす。理念である“利用者の意思及び人格を尊重し、家庭的な環境の下、常に利用者の立場に立つて”の職員の介護の中で、利用者は安全、安心の日々を暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札は、利用者自身で手作りしたものを付けており、トイレは大きな文字で分かりやすく、居住空間はバリアフリーで手すりを設置し、床はクッションフロアで衝撃に配慮している		